

主な内容

- 巻頭言—— 岩手医科大学の今後の展望 理事長 小川 彰
矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院に寄せて 学長 祖父江 憲治
- 特集—— 矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院
- トピックス—— 内丸メディカルセンターの運用説明会が行われました
- フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.87
「急性心筋梗塞を救う！ー経皮的左室補助デバイスIMPELLA（インペラ）による最新の治療ー」
- 表紙写真：開院を迎えた矢巾新病院（2019.9.21撮影）



岩手医科大学の今後の展望

理事長
小川 彰



本学は、明治30年北東北・北海道の医療の貧困を憂い、地域医療を守るため私財を投じ開設された医学校を前身としています。地方にありながら私学が医育機関を作った全国初の学校です。当時の私学で現在なお存続しているのは、東京慈恵会医科大学と本学のみです。3年前には、医歯薬看護の基幹4学部を擁する医療系総合大学が完成しました。

新病院は外部電力が全く絶たれた状況下でも非常用電源ではなく、病院機能を100%維持できるエネルギーセンターを備えた世界初の施設です。関東・東海・南海の広域大災害時の最後の砦として期待されています。さらに、東北で有数の巨大な建物でありながら、患者さんを歩かせない外来・各種検査室のレイアウト、病院内で急変が発生しても、医師がすぐ患者さんの処置が出来る様、病棟毎に医局を配置するなど「医療人は患者さんのそばに」のコンセプトのもと、「患者さんにやさしい病院」を目指しています。

また、企業との共同研究で生まれた最新鋭超高性能CTが完成しその世界第1号機が新病院開院と同時に運用が開始されます。世界から期待されている診断機器です。世界最新鋭診断・治療機器を備え、最先端手術室、CICU、GICU、HCU、SCU、EHCU また、総合周産期母子医療センターを形成するNICU、GCU、MFICU、などの最先端特殊緊急重症集中治療病棟、ドクターヘリ基地と

連携した高度救命救急センターなどを整備した世界最先端レベルの附属病院です。素晴らしい建物すなわちハードは完成しました。問題はこの建物に「命を吹き込む」ことです。病院に関係する全ての職員が古い慣習を捨て新たな視点に立って各職種の業務を見直し素晴らしいハードに見合ったソフトを確立しなければなりません。附属病院が新しくなったのを契機に全ての教職員が一丸となり力を合わせ新たな世界を目指しましょう。

一方、診療は大学の使命の一部です。大学である以上、教育が最も重要な使命です。臨床研修医、専門医をめざす専攻医や各学部の高学年の学生の勉強環境も整備しました。教育も「人」です。教職員と学生の人と人のつながりを大事にきめ細かい教育を心がけるべきです。また、大学である以上研究にも力を入れなければなりません。本学は各学部独自の建物はありません。学部間の垣根を無くし研究にも他学部の斬新なアイデアを導入し世界に発信する高度な研究を可能にする環境を提供しています。

他大学にないユニークな環境のもと、教職員一丸となって創立130周年に向かって新しい岩手医科大学を造っていきましょう。

矢中新病院・内丸メディカルセンター開院に寄せて

学 長
祖父江 憲治



本学総合移転整備計画の当面の最終章として、待望の岩手医科大学附属病院（矢中新病院）が完成し、いよいよ開院の運びとなりました。新病院は最新鋭の医療機器を導入し、優秀な医療スタッフを揃えた1,000床規模の大病院です。県内唯一の特定機能病院として、県民の健康を守る病院として機能してまいります。

新附属病院開院と同時に、内丸の現病院は内丸メディカルセンターとして、外来患者を中心とした高度外来機能病院（50床入院施設）として機能します。内丸メディカルセンターは旧来の歯科医療センターを包含し、医科・歯科総合治療センターとしての役割を果たします。新附属病院と内丸メディカルセンター各々の特色を生かし、本学二大病院は岩手県のみならず、北東北さらに東北の医療中核拠点として地域医療と先進

医療の推進を担ってまいります。この二大病院は、本学の学生諸君にとりましても壮大な実地体験・臨床実習の教場となり、また卒後研修医・専攻医にとりましては絶好の臨床研修センターとなります。

総合移転整備計画の最終章は、新附属病院の完成・開院に続いて、内丸メディカルセンターの新改築を完遂することにあります。それ迄は現内丸の施設で、教育・診療・研究に従事頂く皆様方には大変に御不便をお掛けすることになりますが、より早期に内丸メディカルセンターの新改築に着手すべく、本学の教職員と学生諸君が一丸となって力を合わせ、この難局を乗り越えてまいります。



特集

矢巾新病院・内丸メディカルセンター 開院

本年9月21日に矢巾新病院・内丸メディカルセンターが開院しました。矢巾新病院は県内唯一の特定機能病院で入院・治療を中心とした高度治療機能病院として、内丸メディカルセンターは迅速な検査、診断を行う高度外来機能病院として、相互に連携して運用していくことになります。本稿では、両病院の概要や特徴について紹介します。

■ 矢巾新病院



矢巾新病院は「患者さんにやさしい病院」をコンセプトに、病床数1,000床、手術室20室を備える国内最大級規模の病院として建設されました。病状の急変にも即座に対応できるよう「医師・医療人は患者さんのそばに」を理念に掲げ、医局を病棟に配置。外来では患者さんに負担をかけない動線にも配慮しています。最新鋭の医療機器をはじめ高度救命救急センター、ドクターヘリポートの他、大規模災害などで外部からのエネルギー供給が途絶えても1週間は電力を供給できるエネルギーセンターも備えています。

◆ 基本情報

・病床数：1,000床（一般：932床、精神：68床）／手術室：20室

■ 主な医療機関指定

- ・特定機能病院
- ・総合周産期母子医療センター
- ・高度救命救急センター
- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・臨床研修指定病院 等

■ 特定入院料病棟

- ・救命救急入院料病棟
- ・ハイケアユニット
- ・新生児集中治療室
- ・児童・思春期精神科病棟
- ・脳卒中ケアユニット
- ・母体・胎児集中治療室
- ・新生児治療回復室
- ・回復期リハビリテーション病棟
- ・特定集中治療室
- ・精神科急性期治療病棟
- ・小児入院医療管理料病棟
- ・緩和ケア病棟

◆ 外来診療科

血液腫瘍内科、臨床腫瘍科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、美容外科、頭頸部外科、小児科、児童精神科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、精神神経科、救急科、病理診断科、緩和ケア科、リハビリテーション科
※上記以外の診療科も、がん化学療法関係の診療を行います。

◆ 外来診療について

岩手医科大学附属病院

受付時間	診療時間
平日 8:30～11:00 13:00～16:00	平日 8:30～17:00 (新患の方は診療科によって診療時間が異なります。詳しくは各診療科へお問い合わせください。)
第1・4土曜日 8:30～11:00 (受付時間以外においでの方は総合案内、または各診療科の受付にお申し出ください。)	第1・4土曜日 8:30～12:30

- ・完全予約制の病院となりますので、受診の際は紹介状が必要となります。紹介状がない場合、選定療養費5,000円(税別)がかかります。
- ・常時(24時間365日)1次・2次・3次救急全てに対応します。

◆ 様々な病院機能について

脳卒中ケアユニット (SCU)

急性期の脳血管障害(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など)の患者さんを受け入れる専用の病床です。脳卒中の専門知識を持つ経験豊富な医師、看護師、リハビリテーション技師らの専門チームにより、脳卒中の発症早期から24時間体制で集中的に治療を行います。



ハイケアユニット (HCU)

診療科を問わず重症度が高く、高度な治療や看護ケア・処置が必要な患者さんや全身麻酔下の大手術後で術後管理が必要な患者さんを受け入れる病床です。



高度救命救急センター

広範囲熱傷や四肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救急医療を提供します。また、ドクターヘリのヘリポートと高度救命救急センターは最短距離で結ばれ、手術室までの専用エレベーターも完備しており、時間のロスなく高度治療が可能です。



特定集中治療室

循環器統合集中治療室 (CICU)、一般集中治療室 (GICU)、小児集中治療室 (PICU)

一般集中治療室・小児集中治療室に加え、循環器系疾患に特化した循環器統合集中治療室を備え、手術後に高度な状態管理を要する、あるいは重篤な症状を呈する患者さん等の高度かつ集中的な治療を行います。



総合周産期母子医療センター

母体・胎児集中治療室 (MFICU)

母体や胎児に合併症を有するハイリスク妊娠や、流産の可能性の高い妊婦に対応する治療室です。救急車から直接搬入し、母体救命や高度な母体・胎児医療を行うことができます。



総合周産期母子医療センター

新生児集中治療室 (NICU)、新生児治療回復室 (GCU)

新生児集中治療室 (NICU) は極低出生体重児や仮死新生児、重症心疾患、外科疾患など、集中治療が必要な患者さんを対象とした治療室です。NICU で治療を受け、低出生体重から脱した新生児や状態が安定してきた新生児は、新生児治療回復室 (GCU) や小児病棟に移動して引き続きケアを受ける場合もあります。



回復期リハビリテーション病棟

脳卒中または骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんを対象とした病棟です。多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施します。



緩和ケア病棟

緩和ケアを専門的に提供する病棟です。この病棟は、一般病棟や在宅ケアでは対応困難な心身の苦痛がある患者さんへの対応や、人生の最期の時期を穏やかに迎えることを目的としています。



精神科急性期病棟

急性期の精神疾患に関するケアを行います。患者さんの状態に合わせて、多職種連携により急性期の症状の把握や対処、コンサルテーション、リエゾン精神医療を提供し、地域連携によるコミュニティケアへの導入を行います。



子どものこころ病棟

児童・思春期精神科病棟

3歳から16歳未満の子どもの、こころや行動の問題全般を対象として診療する病棟です。ご家族や学校・地域のかかりつけ医の先生方と連携を取りながら問題解決のための診療を行います。



患者サポートセンター

患者サービスの向上および地域医療連携の更なる推進を図るため、矢巾新病院1階に患者サポートセンターを設置しました。患者さんの相談窓口を一元化するとともに、地域の他医療施設が紹介しやすい仕組みを構築します。



エネルギーセンター

矢巾新病院で使用する電源および冷暖房などの熱源を供給するほか、隣接するドクターヘリ基地や岩手県立療育センター、盛岡となん支援学校に対して電源を供給します。大規模災害発生時や外部エネルギー供給が途絶した場合でも、エネルギーを1週間は供給できるよう計画。また、有事の際に近隣住民の避難所として提供する防災協定を矢巾町と締結しています。



◆ 特徴的な医療設備について



放射線治療機器

がんに対しピンポイントに照射する定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）などの高精度治療を短時間、かつ高精度に行うことができます。



ハイブリッド手術室

血管撮影装置を手術室に設置することにより、画像下治療（IVR）と外科的手術を組み合わせ、大動脈ステントグラフトや経カテーテル大動脈弁置換術など低侵襲で高度な治療ができます。



CT 装置

高速撮影および低被ばく撮影が可能となります。息止めができない患者さんや、動きやすい小児でも鮮明な画像が得られ、特に心臓CTに威力を発揮します。矢巾新病院には本学が企業と共同研究して生まれた高性能CT装置が整備されています。

ハイブリッド CT

手術支援を考えた大開口径の設計で様々な生命維持装置をつけた状態での撮影が可能になります。また外部冷却方式を採用しクリーンな手術室を実現します。



■ 内丸メディカルセンター

内丸メディカルセンターは、迅速な検査、診断を行う高度外来機能病院として地域医療の中心的な役割を担っていきます。患者さんを総合的に診るプライマリケアにも力を入れており、大学病院の専門外来とプライマリケアが連携する新しい地域医療のスタイルを構築していきます。

なお、内丸メディカルセンターは、当面の間既存施設を利用し運用します。将来構想は、盛岡市の中心市街地である内丸地区のまちづくり計画と並行して進め、関係機関と連携して行っていく予定です。



◆ 基本情報

- ・ 病床数：50 床（一般：急性期）／手術室：2 室
- ・ 外来診察室は原則現状とおり（一部除く）
- ・ 歯科診療科機能は現状とおり維持
- ・ 入院は入院棟（前循環器医療センター）6 階を活用
- ・ 手術はデイスージャリーを入院棟（前循環器医療センター）で実施
- ・ 2～3 次救急の機能はなし（すべて矢巾新病院で対応）
- ・ 平日 17 時～21 時に入院棟（前循環器医療センター）2 階診察室を利用して、「内丸応急診療外来」を行う



◆ 外来診療科

■ 内丸メディカルセンター

消化管内科、肝臓内科、循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎・高血圧内科、呼吸器・アレルギー・膠原病内科、脳神経内科・老年科、外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科、婦人科、眼科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、臨床検査科、睡眠医療科、臨床遺伝科、総合診療科、歯科医療センター

※紹介状の有無に関わらず受診が可能です。

※がん化学療法関係の診療は矢巾新病院でのみ対応いたします。

※診療内容によって内丸メディカルセンターから矢巾新病院に紹介する場合があります。

※血液腫瘍内科、精神科、小児科、お産の患者さんについては、矢巾新病院での対応になります。

■ 歯科医療センター

高度先進保存科、高度先進補綴科、口腔外科、矯正歯科、小児歯科、歯科放射線科、歯科麻酔科、口腔総合診療科、口腔インプラント科、障がい者歯科

◆ 外来診療について

内丸メディカルセンター		歯科医療センター	
受付時間	診療時間	受付時間	診療時間
平 日 8:30～11:00 13:00～16:00	平 日 8:30～17:00 (新患の方は診療科によって診療時間が異なります。詳しくは各診療科へお問い合わせください。)	月・水・金曜日 8:30～17:00 火・木曜日 8:30～16:00	月・水・金曜日 8:30～18:00 火・木曜日 8:30～17:00
第1・4土曜日 8:30～11:00	第1・4土曜日 8:30～12:30	第1・4土曜日 8:30～11:30	第1・4土曜日 8:30～12:30

■ 内丸応急診療外来について

- ・ 軽症の患者さんを対象に平日 17 時～21 時まで、内丸応急診療外来にて診察します。
- ・ 受診を希望される方は、必ず電話予約の上、受診されるようお願いいたします。
- ・ 患者さんの状態に応じては、近隣病院、矢巾新病院に紹介する場合があります。
- ・ 救急車の受け入れは行いません。

体験学習イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」が行われました

8月3日（土）、矢巾キャンパス東3A実習室において、体験学習イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」が行われ、岩手県内外の中高生22名が参加しました。

このイベントは、日本学術振興会が実施している科学研究費助成事業（科研費）の研究成果を社会へ還元・普及するとともに、将来を担う生徒の実験に対する興味を促進させ、将来の科学・薬学の発展に寄与することを目的として開催されました。



今年は「虫歯と骨粗鬆症のない未来へ！～体内の酸性環境を作る水素イオンポンプの働きを知ろう～」と題し、生物薬学講座機能生化学分野の中西教授により、生物薬学に関する基礎講義や様々な酵素の活性を検出する実験が行われました。

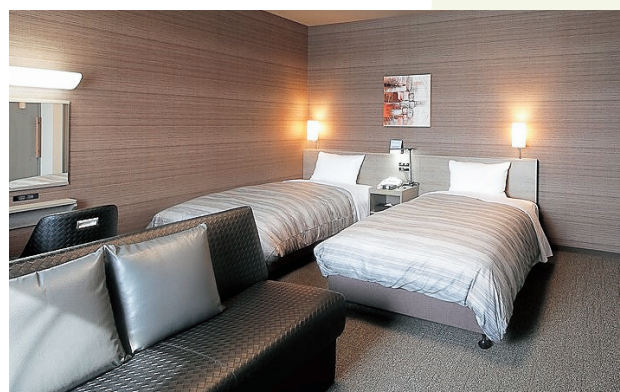


当日は、虫歯菌などの微生物が酸性環境に耐えるために必要な酵素であるプロトンポンプの活性を、海藻類やブドウなどの身近なものに含まれる様々な化合物を添加して測定し、抗菌薬の種（シード）を探し当てる実験や、骨を分解する細胞のリン酸カルシウム吸収活性の観察を行いました。参加した生徒は実験に熱心に取り組み、科学の世界について楽しく学んでいる様子でした。

ホテルルートイン矢巾-岩手医大病院-の完成内覧会が行われました

8月5日（月）、ホテルルートイン矢巾-岩手医大病院-において、完成内覧会が行われました。このホテルは矢巾新病院の敷地内に建設され、県内最大級の301客室を備えています。

当日は、エントランス、客室、大浴場など、主要な設備の数々が公開されたほか、レストランでは朝食の無料バイキングの試食も行われ、新築のきれいなホテルを見学した参加者からは感嘆の声が上がりました。なお、当ホテルは8月9日（金）より営業開始しています。



客室（コンフォートデラックスツイン）



ラジウム人工温泉大浴場「旅人の湯」



朝食レストラン「和み（なごみ）」

(株) マツモトキヨシホールディングスによる 東日本大震災津波復興支援奨学金授与式が行われました

8月21日（水）、矢巾キャンパス東研究棟1階会議室において、(株) マツモトキヨシホールディングスによる本学薬学部学生への東日本大震災津波復興支援および地域に貢献できる優秀な薬剤師を育成することを目的とした奨学金の授与式が行われました。

授与式では、同社取締役管理本部長の小部真吾様より、薬学部5年菅井滉太さん、杉山あずささん、新堀聖さん、山田理紗子さんに奨学金が授与され、学生からは奨学生としての決意が述べられました。



左から：三部薬学部長、山田さん、新堀さん、杉山さん、菅井さん、小部様

内丸メディカルセンターの 運用説明会が行われました

8月22日（木）、歯学部4階講堂にて、内丸メディカルセンターの運用説明会が行われました。

当日は、内丸メディカルセンターのハード面（建物）、ソフト面（運用）、開院後の運用に伴う予行演習などについての説明がありました。また、医療費の取扱いや電子カルテの運用方法など、よくある質問への回答が述べられ、教職員が内丸メディカルセンターの運用体制について理解を深める機会となりました。



内丸メディカルセンターの運用について説明する下沖教授
(内丸メディカルセンター長)

2019年度第4回災害医療研修会 が行われました

8月24日（土）、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センター 1階研修室において、災害医療研修会（初級Bコース）が行われました。

この研修は、災害医療とは何か？という初歩的な概論から災害発生時の院内初動対応、慢性期における避難所運営など実践に即した内容まで、講義や演習で修得できる研修となっております。本研修は全5コース年8回開講されており、医師、看護師、臨床研修医、大学院生、学部学生、メディカルスタッフ、また災害発生時に連携して活動する警察、消防、自衛隊、行政職員等、災害医療に興味のある方を幅広く対象としております。今回行われた研修には県内外の大学、病院、企業などから17名が参加し、本学からも8名が受講しました。



デモを聞きトリアージのタグに記入する参加者

当日午前は救急・災害・総合医学講座災害医学分野の藤原助教、富永助教を講師として「災害時の初動と病院避難」「多数傷病者受け入れ」に関する机上シュミレーションが行われ、午後は高度救命救急センターの金子看護師によるトリアージに関する講義及び実習が行われました。



実習を行う参加者

矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院記念番組について

矢巾新病院・内丸メディカルセンターの開院記念番組が以下の放送局で放送されます。皆様方には是非ご覧いただきたく、お知らせいたします。なお、放送内容は変更になる場合があります。

岩手めんこいテレビ

- 番組名 「未来へつなぐ、誠の医療 ～岩手医科大学、命運をかけた世紀の大事業～」
- 放送日 令和元年10月12日（土） 13：55～14：25
- 内 容 本学の歴史、総合移転整備計画について、矢巾新病院落成式、運用予行演習の様子、病院移転当日の様子、矢巾新病院の施設紹介など。

IBC 岩手放送

- 番組名 「医の道拓く～つなぐ未来」
- 放送日 令和元年10月30日（水） 20：00～20：54
- 内 容 移転当日までの道のりを医療現場、輸送、事務、広域連携などの視点から取材。移転の様子を複数台のカメラで同時進行で撮影し、移転プロジェクトの貴重な様子を伝えます。歴史に残る中核病院の新しい門出と、その目指すものとは！矢巾地区で新たに刻まれる岩手県の医療新時代の姿を探ります。

附属病院移転カウントダウンミニ番組（IBC 岩手放送）について

- 番組名 「医の道拓く～つなぐ未来（ミニ番組）」
- 放送日 令和元年8月5日（月）から毎週月曜日 18：55～19：00 全12回
- 内 容 番組では、附属病院移転の概要や入院患者搬送計画の詳細、入院患者搬送当日の様子などについて、小川理事長や小笠原附属病院長のインタビューを交えて紹介します。

放送回	出 演	主な内容（予定）	放送回	出 演	主な内容（予定）
① 8月5日	小川理事長	附属病院移転の概要	⑦ 9月16日	自衛隊・警察・消防	入院患者搬送時の連携
② 8月12日	小笠原附属病院長	入院患者搬送計画の概要	⑧ 9月23日	—	入院患者搬送ドキュメント
③ 8月19日	小山教授 (小児科学講座)	入院患者搬送計画 (NICU・小児患者)	⑨ 9月30日	小笠原附属病院長	稼働を始めた矢巾新病院の概要
④ 8月26日	佐藤看護部長	患者ケアの視点からの搬送体制	⑩ 10月7日	下沖センター長 (内丸メディカルセンター)	内丸メディカルセンターの役割
⑤ 9月2日	田中教授 (歯科放射線学分野) ※電子カルテ運用管理者	電子カルテの対応	⑪ 10月14日	小笠原附属病院長	受診のための手引き
⑥ 9月9日	吉岡教授 (放射線医学講座)	最先端の医療機器 トレーニングの実際	⑫ 10月21日	小川理事長	新体制・本学の未来

※放送内容は変更になる場合があります。

テレビ岩手

- 番組名 「岩手医科大学附属病院 矢巾町移転（仮）」
- 放送日 令和元年11月4日（月・祝） 16：50～17：50
- 内 容 120周年の地域医療貢献の歴史、移転に向けた事前・当日のドキュメント、新病院の機能紹介、理事長インタビューによる今後の展望など。

理事会報告（7月定例－7月29日開催）

1. 学長選任規程の一部改正について

学長選任規程における選考委員会委員について、看護学部教授会から選出する委員4名を追加し、本学の准教授・講師から選出する委員を6名から8名に変更することに伴う改正案を承認した。

（施行年月日 2019年8月1日付）

2. 学則の変更について

医学部医学科の暫定定員である、新医師確保総合対策（岩手県地域枠）、緊急医師確保対策（岩手県地域枠）及び歯学部定員減による医学部定員振替枠が、今年度で期間満了となることから、令和3年度まで期間延長することとし、学則の附則にて、同年度まで入学定員を126人、編入定員を4人とする、並びに、附則で定めている歯学部歯学科の入学定員73人を、恒久的な定員とする必要が生じたことから、本則にて73人に定めることを承認した。

（施行年月日 2020年4月1日）

3. 附属病院の組織改編について

矢巾新病院及び内丸メディカルセンターは、施設設備や運営体制に対応した組織とする必要があるため、組織を階層分け及び定義付けした上で、病院機能評価、病院新築移転の大学基本方針、法的根拠、医療の質の向上、及び組織的なまとまりを考慮し作成した組織改編案を承認した。

4. 経理規程の一部改正について

矢巾新病院及び内丸メディカルセンターの開院による病院組織の改編に伴い、経理規程の会計単位について所要の改正を行うことを承認した。

（施行年月日 2019年9月21日付）

5. 公益財団法人岩手県対がん協会との土地賃貸借契約について



今年は医大祭 2019 を開催します。11月2日はカミナリによるお笑いライブ、11月3日はミス・ミスターコンテストを開催予定です。他にも、吹奏楽部・オーケストラ同好会・軽音部による楽器演奏、ストリートダンス同好会やパフォーマンス同好会によるステージ発表、さんさ踊り部による演舞など様々なステージショーを予定しています。皆様のご来場をお待ちしております。

医大祭ホームページ: <https://idaisaidayo.wixsite.com/imufes2019>

テーマ 『たかが「僕」、されど「僕」。』

附属病院の矢巾キャンパスへの移転により、私たち学生は附属病院ではたらく多くのプロフェッショナルの姿を間近にし、大変刺激を受けました。私たち学生の一人ひとりの力はまだまだ微力ですが、学生なりに情熱と誇りを持ち、医療人として一步一步成長していこうという想いを込めました。

■ 出店・出展情報

- ・各研究室による学術展示及び公開実験
- ・ギター部の演奏つきコーヒー販売
- ・茶道部によるお茶とお菓子の提供
- ・美術部、華道部による作品展示
- ・各部活による食品の販売
- ・手づくりアイスクリーム牧舎 松ぼっくり 他

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美
影山 雄太 菊池 初子
松政 正俊 工藤 正樹
齋野 朝幸 熊谷 佑子
藤本 康之 安保 淳一
白石 博久 佐々木忠司
成田 欣弥 畠山 正充
遊田由希子 藤村 尚子
佐藤 仁 武藤千恵子
小坂 未来 高橋 慶
藤澤 美穂

編集後記

岩手医科大学開学以来の大事業である新附属病院への病院移転が実施されて開院となりました。患者搬送大作戦、新附属病院の開院そして内丸メディカルセンター開院と、令和元年9月は本学にとってまさに激動の一か月になりました。本号では特集として矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院について紹介しています。新附属病院は「患者さんにやさしい病院」をコンセプトに、病床数1,000床、手術室20室を備える国内最大級規模の病院です。附属病院移転は全職員が一丸となつての歴史に刻まれる大事業でした。本号がお手元に届く頃には本格稼働を迎えた新附属病院と内丸メディカルセンターで新たな仕事が始まっています。激動の9月から実りの秋の10月へと季節は動いていきます。

（編集委員 佐藤 仁）

岩手医科大学報 第516号

発行年月日 令和元年9月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号

TEL 019-651-5111（内線5452、5453）

FAX 019-654-7563

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

内科学講座循環器内科分野 助教 二宮 亮



急性心筋梗塞を救う！ - 経皮的左室補助デバイス IMPELLA（インペラ）による最新の治療 -

「とても大きな心筋梗塞でした。カテーテル治療は成功し一命はとりとめました。予断を許さぬ状況です。」新たな治療によってこの状況が変わろうとしています。

はじめに

近年、心臓カテーテル治療の普及と医療デバイスの進化により循環器診療は大きく進歩しました。しかしながら、心疾患の年間の死因別死亡総数は19万6,723人と悪性新生物に次ぐ第2位であり、その中でも、急性心筋梗塞は3万9,956人で心疾患全体の20.3パーセントを未だに占めています。

1962年に心原性ショックに対する治療として大動脈バルーンパンピング（IABP）が報告されて以降、IABPによる血行動態サポートが普及しました。しかしながら、近年ST上昇型心筋梗塞に対するIABP補助が心筋梗塞の梗塞サイズを減少させないという結果がもたらされました。そして、IABPに変わる新しい左室補助循環装置であるIMPELLA（インペラ）が最近着目されています。

IMPELLA（インペラ）について

IMPELLAは、心腔内に留置するポンプカテーテルと制御装置により構成されています。足の付け根から経皮的・経血管的にポンプカテーテルを挿入し、ポンプ内の羽根車を高速回転して左室内のカテーテル先端の吸入部から血液をくみ出します。大動脈に位置した吐出部へ送り出すことで血液循環の補助を行い、左心室内の圧を下げ、左心室の働きを補助することを目的に開発されました。具体的には心原性ショックを伴う急性心筋梗塞、急性心筋炎が良い適応と考えられ、心筋梗塞の梗塞範囲を減少させることも報告されています。

当院での使用経験

当院でも2018年8月から導入され、これまで20例の治療に使用されました。実際にIMPELLAの影響は大きく、これまで救えなかった心原性ショックを伴う重症患者の治療の大きな助けとなっています。さらに、2019年8月から全国に先駆けて、より大きな心負荷軽減が可能なIMPELLA CPが先行導入され、東北、北海道では最初の施設となりました。IMPELLA CPの導入により今まで以上に心原性ショック患者の救命が期待できると思われます。矢中新病院では最大24床のCICU（Cardiac Intensive Care Unit）が稼働予定であり、最新の医療デバイスを用いて最短で心筋梗塞患者を救う準備を整えています。心筋梗塞治療の補助となるIMPELLAを使用できる県内唯一の施設としてより多くの急性心筋梗塞患者を救う事を全うしたいと考えます。

